

平成28年9月27日

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

村上市教育委員会

1 平均正答率

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
村上市	74.2	59.5	80.2	48.1	75.0	62.7	58.3	38.5
新潟県	75.8	59.6	79.6	47.7	76.5	66.9	62.3	44.0
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
県平均との差	-1.6	-0.1	+0.6	+0.4	-1.5	-4.2	-5.0	-5.5
全国平均との差	+1.3	+1.7	+2.6	+0.9	-0.6	-3.8	-3.9	-5.6

(1) 小学校の特徴

- ① 教科に関する調査のすべてにおいて、村上市の平均正答率は全国平均を上回っている。
- ② 国語A・Bでは、昨年度よりも県平均に近付いた。特に国語Aでは、県平均との差が大きく縮まり、国語Bでは、ほぼ県平均とほぼ同等であった。
- ③ 算数A・Bでは、昨年度より大きく向上し、県平均を上回った。特に算数Bでは、昨年度全国を-4ポイントと大きく下回っていたが、今回は全国、県ともに上回った。

(2) 中学校の特徴

- ① 教科に関する調査のすべてにおいて、村上市の平均正答率は全国平均及び県平均を下回っている。
- ② 国語Aでは、全国平均との差が0.6ポイントであったが、国語B、数学ABでは全国平均を3ポイント以上下回った。特に数学Bでは-5.6ポイントと大きく下回った。
- ③ 昨年度は全国平均・県平均に近付いたが、今年度は、国語・数学ともに村上市の平均正答率は、全体的に、県平均・全国平均と差が開いた。

2 考察

(1) 学校別平均正答率等

- ① 小学校では教科に関する調査の平均正答率の合計で、65%の学校が全国平均以上であった。全国平均を10ポイント以上上回った学校が半数あったが、10ポイント以上下回った学校も全体の25%あった。
- ② 中学校では教科に関する調査の平均正答率の合計で、25%の学校が全国以上であった。全国平均を10ポイント以上上回った学校が1校あったが、10ポイント以上下回る学校が半数あった。
- ③ 学校規模・児童生徒の実態に違いがあるため、単純に比較はできないが、学校間において大きな差が見られる。小学校では、全国平均を大きく上回る学校が増え、大きく下回る学校が減っている。中学校では、全国平均を大きく下回る学校が昨年度よりやや増えたものの、全国平均差の最低値が、昨年度は-38ポイントであったが、今年度は-29.8ポイントとなり改善傾向が見られる。
- ④ 全国平均正答数を超えた児童生徒の割合は、小学校国語ABと算数A、中学校国語ABでは60%程度であった。しかし、小学校算数B、中学校数学ABでは50%を下回り、特に数学Bでは40%を下回った。

- ⑤ 児童生徒質問紙の「授業の内容がよく分かるか」についての肯定的回答が、国語では、小学校で86.2%と全国平均の80.7%を5ポイント以上上回ったのに対し、中学校では、73.1%と全国平均の74.1%をやや下回った。また算数・数学では、小学校の肯定的回答が、83.4%と全国平均80.2%を3ポイント程度上回ったのに対し、中学校では64.7%と全国平均の69.4%を5ポイント近く下回っている。
- ⑥ 文章、言葉や式等で書く問題について最後まで書こうと努力した児童生徒の割合は、国語では、小学校で79.9%と全国平均の75.1%より約5ポイント高かったものの、中学校では、66.7%と全国平均の71.7%を5ポイント下回った。また、算数・数学では、小学校が74.4%と全国平均72.0%をやや上回ったのに対し、中学校では41.0%と全国平均の50%を約10ポイント下回っている。

(2) 各設問に見られる傾向

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
総設問数	15	10	16	13	33	9	36	15
全国平均と同等又は上回った設問数	9	5	14	7	17	3	11	1

① 小学校の傾向

- ア 全国平均を上回った設問が、各教科で半数以上あった。特に算数Aでは、下回った問題が2問のみと良好な結果となった。
- イ 全国平均を下回った設問のうち、全国との差が最も大きかったのは、国語Aでは「学年別漢字配当表に書かれている漢字を正しく書く問題」の-5.0ポイント、国語Bでは「活動報告文において、課題と取り上げた効果を捉える問題」の-6.9ポイント、算数Aでは「三角形の底辺に対応する高さを選ぶ問題」の-2.7ポイント、算数Bでは「正方形に内接する円の半径についての理解を問う問題」の-2.7ポイントであった。

② 中学校の傾向

- ア 全国平均を上回った設問は、国語Aでは約半数、国語B・数学Aでは約3割、数学Bでは1問のみであった。
- イ 全国平均を5ポイント以上下回った設問は、国語Aで7問、国語Bで5問、数学Aで15問、数学Bで12問であった。
- ウ 国語Aで特に全国平均との差が大きかったのは、「文脈に即して漢字を正しく書く問題」の-7.0ポイント、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題」の-7.2ポイントなどであった。国語Bでは、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える問題」の-13.9ポイント、「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題」の-7.9ポイントなどであった。
- エ 数学Aで特に全国平均との差が大きかったのは、「分数と小数の乗法の計算問題」の-10.9ポイント、「一元一次方程式の解の意味理解を問う問題」の-10.4ポイント、「対称移動した図形をかく問題」の-14.8ポイント、「反比例を表した事象を選ぶ問題」の-13.3ポイント、「反比例のグラフから式を求める問題」の-12.6ポイント、「一次関数の式から変化の割合を求める問題」の-15.7ポイントなどであった。数学Bでは、「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現する問題」の-15.6ポイント、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題」の-10.1ポイント、「2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する問題」の-10.9ポイントなどであった。

(3) 家庭学習との関連

- ① 平日1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合は、小学校では、村上市は76.8%と、全国平均62.5%を14.3ポイント上回った。中学校では62.6%と全国平均67.9%を5.3ポイント下回った。平日1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合は、小中学校を比較すると、全国では増加しているが、村上市では減少傾向が見られる。
- ② 平日の家庭学習時間が1時間未満の児童生徒の割合は、小学校で22.7%、中学校では37.1%であった。その内、30分未満とまったくしないを合計した児童生徒の割合は、小学校では4.2%であったが、中学校では11.0%となった。
- ③ 休日の家庭学習時間が1時間以上の児童生徒の割合は、小学校では70.5%、中学校では67.7%であった。小学校では、平日に比べ1時間以上家庭学習をする割合は減少し、中学校では、休日には1時間以上家庭学習をする割合が増えている。特に、中学校では、2時間以上学習する割合が25.9%となり、休日にまとめて学習をする傾向が見られる。
- ④ 生活習慣の改善を含めた家庭学習の時間の確保、授業との関連を図った家庭学習課題など児童生徒が家庭学習に主体的に取り組めるように指導を工夫する必要がある。

(4) テレビ・テレビゲーム等との関連

- ① 小学校・中学校ともに、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンなどの利用時間が長い児童生徒ほど平均正答率が低くなる傾向が見られた。
- ② 平日(月～金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲームやスマートフォンを使ってゲームをする割合は、小学校では、34.8%と全国平均29.7%に比べ5.1ポイント多い。中学校でも、41.8%と全国平均33.9%に比べ7.9ポイント多い。
- ③ 平日(月～金曜日)、1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール等をする割合は、小学校では10.5%と、全国平均10.4%とほぼ同等であったものの、中学校では33.7%と、全国平均の30.1%より3.6ポイント多くなっている。これは、県平均の25.3%と比べて8.4ポイント多い。
- ④ 学校と家庭が連携し、メディアコントロール等の生活習慣の改善に向けた取組を継続して行っていく必要がある。

(5) 地域行事等への参加

- ① 今住んでいる地域の行事に参加については、小学校では89.0%と、国平均の67.9%と比べ、21.1ポイント高かった。中学校でも60.5%と、全国の45.2%と比べ15.3ポイント高かった。
- ② 地域のボランティア活動への参加についても、小学校では46.4%と全国平均36.2%と比べ10.2ポイント高かった。中学校でも62.2%と全国平均の48.7%に比べ、13.5ポイント高かった。
- ③ これらのことから小中学校ともに地域の活動に積極的に参加していることが分かる。

(6) 話し合い活動について

- ① 「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたか」については、小学校では81.0%と、全国平均77.1%と比べ、約4ポイント高い。中学校でも80.7%と、全国平均69.3%と比べ11.4ポイント高かった。
- ② 「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたか」については、小学校では、71.9%と全国平均の64.2%と比べ、7.7ポイント高い。中学校でも81.1%と全国平均の72.4%と比べて8.7ポイント高い。
- ③ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」では、小学校では、75.3%と全国平均の68.3%と比べ7ポイント高い。中学校でも、69.6%と全国平均の64.8に比べて4.8ポイント高い。

- ④ その他の話し合いや発表に関する項目でも小中学校とも全国より肯定的に回答した割合が高く、授業において積極的にペアやグループ等を活用した話し合いを取り入れてきたことが分かる。今後はさらに話し合いの質を高めていく必要がある。

3 成果と課題

(1) 小学校について

- ① 全般的に良好な結果である。特に算数において伸びが見られる。Web配信集計システムを授業改善に活用しながら、一人一人の児童の実態に応じた指導を充実させてきた成果であると考えられる。
- ② 国語B・算数Bなどの活用力を問う問題で全国平均を下回る設問が複数あり、活用力に課題が見られた。国語では、目的や意図に応じて、図表やグラフを用いて自分の考えを書く、算数では、日常生活の事象について学習内容を活用して考察する、日常生活の問題の解決のために必要な情報を収集して、目的に応じて学習内容を活用し判断するなど、授業において活用力の向上を図る工夫をしていく必要がある。
- ③ 家庭学習を1時間以上取り組む児童の割合は多いものの、中学校では減少する傾向があるため、さらに小学校のうちから確実な家庭学習習慣を身に付けさせる必要がある。

(2) 中学校について

- ① 平成25年度以降、全国平均との差が縮まってきたが、今年度は、国語・数学とも昨年度の結果を下回った。授業においては、ねらいとまとめ、授業の流れを明示する、振り返りを充実させるなど、学習内容の定着に向けた具体的な取組を進めている。今後も継続するとともに、今まで以上に、生徒の実態を適切に把握し、実態に応じた生徒一人一人が確かな学びを実感できる授業づくりを進めていく必要がある。
- ② 国語A・B、数学A・Bとも、全国平均との差が大きくなった。特に活用力を問うB問題では、差が顕著である。また、数学では、多くの問題が全国平均を下回るなど、課題が多い。Web配信集計システムの活用による授業改善、学力実態の適切な把握と学力差に応じた指導の工夫、生徒に「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感させることができる授業づくりを確実に進める必要がある。
- ③ 平日の家庭学習時間が1時間以上の児童生徒の割合が全国平均より少なく、平日にテレビゲームやスマートフォンで通話やメールを2時間以上する割合が全国より多いことから、生活習慣の改善を含めた家庭学習への取組を継続して取り組む必要がある。

4 改善策

(1) 授業改善に向けて

- ① 学力向上研修会を実施し、成果を上げている学校の取組について学ぶとともに、各校の課題と改善策を明確にする。
- ② 中学校数学プロジェクトにおいて、定期テストを改善し、共通問題を設定して取り組む。
- ③ Web配信集計システム発展問題に小中学校全体で取り組む。
- ④ 学力向上計画訪問を継続するとともに、重点中学校区を設定し、継続的に訪問指導を行う。(来年度)

(2) 家庭学習習慣の改善に向けて

- ① 全国学力・学習状況調査結果を分析し各校及び中学校区の課題を明確にするとともに、メディアコントロール等の生活習慣の改善を含めた家庭学習習慣の定着に向けた取組を計画的・継続的に行う。また、取組成果の検証と分析、課題の明確化と原因の究明を各校及び中学校区に求め、確実な改善に努めていく。